

有恒学舎を創設した教育者

ますむら

ぼくさい

増村 朴 斎 (1868-1942)

針村で生まれた神童

1868年（明治元）増村朴斎（本名度次）は、針村（現・板倉区針）で父増村度弘、母ちくの次男に生まれました。

朴斎は針小学校に入学後、8歳で諏訪神社大^{のぼり}幟の文字を書き、11歳で漢詩を作るなど村民から神童と称されました。

郷土子弟の教育を夢見る

朴斎は14歳で上京して国学者南^{なん}摩^ま羽^う峯^{ほう}の教えを受け、15歳で大養村百間町（現・頸城区百間町）の井部健斎の温知塾に学びました。さらに、1885年（明治18）朴斎は再び上京し、羽峯の助言を受けて斯^し文^{ぶん}鬢^{こう}に学びました。ここで郷土子弟を育てる夢を育み、とくに明六社の啓蒙思想家西村茂樹から有恒学舎教育の支柱となる道德至上主義を学びました。

この教えは、「先公後私」など有恒精神「三綱領」として現在も受け継がれています。

有恒学舎を設立する

1895年（明治28）朴斎は新潟県から有恒学舎設立認可を受け、翌年4月10日針の浄覚寺を仮校舎に有恒学舎を開学しました。5月には勝海舟書「有恒学舎」の額が哲学館大学（現・東洋大学）創立者井上円了から届けられ、7月29日に沖ノ宮校舎が完成して盛大な開校式が行われました。

学舎経営と郷土の教育に尽力する

学舎設立後の朴斎は、自ら倫理の授業を受け持ち、力量ある教師を全国から招きました。会津八一は1906年（明治39）から4年間英語教師として教壇に立ちました。また、新渡戸稲造、徳富蘇峰ら多くの著名人が学舎を訪れました。

1921年（大正10）朴斎は新潟県教育会長に就任し、その後も中頸城郡教育会長など要職を務め郷土の教育に尽力しました。

朴斎は1942年（昭和17）74歳で亡くなりましたが、有恒学舎は1964年（昭和39）県立有恒高等学校となり、朴斎の建学精神は引き継がれました。同校の隣には増村朴斎の邸宅跡地があります。